

日時： 2011年3月21日 08:37:32JST

件名： Epilepsy_Disaster_110321_08:37

静岡の小出先生が岩手県沿岸部での活動から無事に戻られました。
小出先生の許可を得ましたので全文転送いたします。
中里信和

--

日時： 2011年3月21日 06:53:50JST

件名： 静岡小出です ただ今帰着しました。

皆様

静岡てんかんセンターの小出です。ただいま静岡に帰着しました。

現地での活動のご報告を申し上げます。

行程としては西新潟中央病院のチームと花巻から釜石に入り、そこから沿岸部の大槌町→山田町と移動して、

山田南小学校に入りました。ここには日赤、昭和大学、国立病院機構の主に3グループが診療を行っていました。

ここには避難されている方が隣の幼稚園や武道場を含めると1000人以上いらっしゃいました。

山田町内で活動している他の団体(獨協大学DMAT、自衛隊など)も交えてこの小学校で夜1回ミーティングを行い、山田町内の避難所のどこをカバーするかを話し合い、翌日は各自の分担地域について活動するというスタイルでした。

ただこれだとある程度カバーする避難所の数に限りができてしまいます。私たちは各団体にも協力をお願いして、以下のような活動をしてきました。

①各避難所の巡回

一つの避難所に長く滞在するのではなく、範囲を釜石北部から宮古南部まで広げ、できるだけたくさんの方の避難所を回り、そこでてんかん患者の有無を確認するという方法をまずとりました。これですぐに開業医や宮古山口病院、岩手医大などの数人の患者に抗てんかん薬を届けることができました。しかし今避難されている方は日中ずっと避難所にいるのではなく、自宅に戻って身内の捜索や使える日用品を集めたりしている方も多く、漏れがあることが危惧されました。ですので添付資料Aのようなチラシをつくり、笹川先生には山田南小学校に常駐して頂き、静岡のチームが巡回するという方法をとることにしました。チラシを各避難所に自ら配る、あるいは夜のミーティングやいろいろなか所で出会った各医療チームが、訪れた先で目に付くところに貼ってもらう、行政に配布を依頼するなどの方法で、漏れていた患者さんがチラシをみて山田南小学校を訪れて薬を受け取ることができました。また各避難所で医師が来る予定があるかどうかを確認し、あればそのまま次の避難所をめざし、なければ通常の一般診療や常用薬の処方を行いました。

また我々が現地から撤収して以後の患者さんの岩手県内での受診可能な施設に関して、添付資料Bを作成し、これも各避難所に同様の方法で配布しました。

さらに今後患者さんに薬がわたる方法としてはてんかんが専門でない医師から処方

を受けることが多いことが予想されたため、てんかん患者さんへの対応のお願いとして添付資料Cを残し、再び皆さんへの周知をお願いしてきました。

②マスコミを通じた広報活動

現地にたくさんのジャーナリストが入っていたため、NHKや読売新聞などの記者に資料Bを配布し、現地のメディアを通じた広報を行っていただきました(NHKはラジオで広報を行ってくれたと聞きました)

最終的には20日の活動終了時まで約20人の患者さんに直接抗てんかん薬を届けることができました。

③現地医療機関、活動中の医療チームへの医薬品の提供

西新潟中央病院から新規抗てんかん薬を中心とした非常に多くのてんかん薬の提供をいただき、また当院からも一般薬、抗てんかん薬を多量に持参しましたので、患者さんに配布した分以外は現地で提供してきました。山田南小学校には現地でみた患者さんの数から少なくともある程度の日数は処方可能な量を残してきました。また西新潟中央病院チームには帰路国立釜石病院、国立花巻病院に新規抗てんかん薬を中心に提供を行いました。静岡からはさらに県立宮古病院、国立釜石病院、県立釜石病院に薬を提供しました。また現地で活動中であった大阪市立総合医療センターの医師にも抗てんかん薬を提供しました。

今後は現地から被災者のみならず、てんかん治療について現地で活動中の他科医師からの問い合わせにも応じるつもりであります。

できるだけ多くの患者さんがつらい目にあわないことを願っています。

今後まだ数日から数週は現地でのローラー作戦による各避難所での患者の拾い上げが有効と思います。ついでに広報も行うとよいです。

ここ数日できるだけの人に現地で活動していただくことが多くの患者さんのためになると思います。家が大丈夫で避難はしていないものの、ガソリンやライフラインの問題で受診できない人も多いので、各自治体の災害対策本部をみつけていただき、そこに広報を依頼するのは有効な方法です。患者さんの口コミもお願いしてみる価値があります。

今後ガソリンや電気の復興が進めば患者さんも受診しやすくなる方が増えるとは思いますが、普段公共交通機関を利用して、沿岸部から遠方を受診していたような場合はやはり受診が難しいので、沿岸部に薬のある程度の量、種類で届ける必要性は常にあります。(ちなみに山田町は小学校に19日夜になって電気は来ましたが、水道とガスの復旧の見込みは数週～数か月程度とのことです。トイレも仮設で当初は地面に穴を掘っていました)

受診できるようになったがかかりつけは被災していて受診が不可能な場合、どこに行けばよいのかを貴重なガソリンを無駄にしないために我々が情報を提供する必要があると感じております。

岩手県については上記のような形で情報を提供してきましたが、今後もさらに追加でマスコミには依頼を行うつもりです。宮城は仙台医療センターに薬が大量に届いているとのことですので、沿岸部に輸送ができればそうした施設について情報を提供していく必要があると思います。その場合もマスコミに加えて現地で活動中の様々な緊急医療支援チームに協力を依頼するのが良いと思います。福島県については情報不足です。これから情報を集めたいと思います。福島への抗てんかん薬の輸送についても自

衛隊を含め早急をお願いする必要があると思います。

現地では自衛隊や自らも被災者であるにもかかわらず頑張っておられた行政の方々、各医療チームにもいろいろと助けて頂き、大変ありがたく感じました。もっとも印象的であったのは被災者の方々が悲惨な状況(山田町は津波で破壊されたのち、プロパンや車に引火して火災が発生し、本当に焼野原になっていました。大槌町は津波で町が消失しました・・・)にもかかわらず、前を向いて頑張っておられたことです。親を亡くした子供にも会いました。診療中に涙がこぼれたのはあまり経験がありません。

以上ご報告いたします。また今後も活動につきましてはご報告申し上げます。

静岡てんかん・神経医療センター
小出泰道